

チームオレンジ善通寺だより

認知症本人発信支援事業



「認知症本人・家族みんなのつとめ」 in 善通寺市

令和6年2月7日(水)、香川県長寿社会対策課とチームオレンジ善通寺のコラボ事業として「認知症本人発信支援」を目的としたつとめを開催しました。当日は観音寺市から増田さんご夫妻とグループホーム管理者の安藤氏をお迎えし、増田さんが認知症の診断を受けるまでのこと、病院を受診したきっかけ、普段の暮らしについてお聞きし、会場の参加者も交え自由に語り合いました。増田さんのユーモアあふれるお人柄、奥様の穏やかな表情に笑いあり、感動ありのほっこりとした会になりました。

認知症本人発信支援とは？

「認知症施策推進大綱」に掲げられた5つの施策のひとつ。

認知症の本人が自らの言葉で語り、認知症になっても希望を持って前を向いて暮らす姿を積極的に発信すること。認知症の人が暮らしやすい地域のあり方を本人の視点で地域の人たちと一緒に考えていくことが求められている。



増田さんご夫妻のお話より

- ・隣近所の人との挨拶や他愛もない会話が楽しくうれしい。
- ・身近に出かけるところがあれば、どんどん出かけたがたい(観音寺市では本人同士が交流する本人ミーティングがある)。
- ・周りの人が「あれ?おかしいな。」と気づいてからも、受診までに時間がかかった。
- ・病院の先生は「周りの方と交流し、楽しく過ごすことが大切。」と言ってくれている。認知症になっても本人は本人のまま。
- ・病状のことを周りの人に話している。周りに知っておいてもらえれば、今まで通り普通に暮らせている。
- ・家族のイライラを発散することも大事。同じ立場の方の話を聞いたり、話を聞いてもらってはどうか。

参加者の感想

- ・今日のように明るく本音を話せばよい。
- ・ご本人が素直に思いを話されていて、とても好感を持った。
- ・今回のような集まりがあればまた参加したい。もっとたくさんの方に参加してほしい。



←県から認知症の啓発
グッズをいただきました!

第12回チームオレンジ善通寺座談会



令和6年6月5日(水)、今年度初めての座談会を開催しました。2月のつどいの時に、「話し足りなかった！！」とお声があったので、今回は「認知症になっても安心して暮らし続けることができるまちを自分たちの手で作ろう！」をテーマに21名の参加者のみなさまと一緒にお話ししました。

自分が認知症だったら、介護が必要になったら…

- どこで、誰と、どんなふうに暮らしたいか？
- 希望をかなえる時に課題（障壁）になりそうなことや不安なことは何か？
- 周囲の人や環境に何を期待するか？
(家族、友人、近所の人、スーパーや銀行等)
- 自分でできにくいことについて、どうしたいか？
- どんな地域だと安心して暮らせるか？
- 認知症であることをオープンにするか？隠すか？その理由は？



「正解も間違いもない！」、「どんな意見も否定せず、いろいろな考えがあることを知ろう！」を合言葉に自由に意見交換を行いました。みなさんの声を一部ですがご紹介します。

認知症であることをオープンにするか？しないか？不安に思うことは？

- 認知症はオープンにして、みんなに助けをもらいたい。
- オープンにした方が楽だけど、知られたくない気持ちも半分ある。
- 認知症になったらオープンにして、皆さまの助けをお借りしたい。
- 今はオープンにしたくない気持ち。その時でないといけない。
- 今はオープンにしたくない気持ち。
- 自分が認知症ではないかと。とても不安です。忘れっぽく、人の名前や顔が覚えられません。



▲こんな感じでまとめをしました

参加者の感想・気づき

- 困った時に助けをもらえるよう、積極的に出かけて自分の顔をみんなに覚えてもらえるようにしたい。
- この会に集まっている人は認知症のことを勉強されていて理解があるから安心して話せるが、地域に戻るとまだまだ同じようにはいかない。
- 初期の認知症の人や介護保険を使う程ではないが不安や困りごとがある人が利用できるメニューが少ないのではないかと？そういう人が集まれる場所、ほっとできるような場所を善通寺に作りたい。
- 介護者の相談にのってくれるところが必要。

活動に興味のある方や認知症について相談したい方がいらっしゃいましたら、地域包括支援センターまでご連絡ください♪

善通寺市地域包括支援センター（高齢者課内）

TEL (0877)63-6364 FAX (0877)63-3778

Mail hokatsu@city.zentsuji.kagawa.jp

